

令和6年度 学校評価一覧表

| | |
|----------------------|--|
| <p>本年度の 重点目標</p> | <p>★安全で安心できる学校づくり ア 児童生徒が安心して学ぶことのできる環境づくりに努める。 イ 最新の情報に基づいた健康管理と完全管理に努める。 ウ ICTを活用した業務の効率化に取り組み、職場環境を整える。</p> <p>★教育活動の充実 ア 将来の生活を見据え、段階的なつながりのある授業を行う。 イ 自立活動やICTに関する教員の専門性の向上を図る。</p> <p>★地域との連携 ア 情報発信に努め、本校の教育活動に対する理解啓発を推進する。 イ 特別支援教育のセンター的機能の充実を図り関係機関との連携を強化する。</p> |
|----------------------|--|

| 項目 | 部 | 重点目標 | 具体的方策 | 留意事項 |
|---------------|-----|--------------------------------------|--|--|
| 教育活動の充実 | 小学部 | 目指す子ども像を実現するための授業の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・スクールポリシーに掲げられた小学部の目指す子ども像のイメージをより分かりやすく具体化、整理し、全員が共通理解できるようにする。 ・各教科における年間指導計画のモデルを作成し直し、指導に活用する。 ・国語、算数については指導段階表の見直しを図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・部内でそれぞれ検討チームを編成し、実態調査、検討事項のまとめを進める。具体案の検討は部会や学年主任者会等を利用し検討する。 ・教科書の内容を積極的に取り入れたり、学習指導要領の内容も適宜振り返ったりするような視点を大切にする。 |
| 教育活動の充実 | 中学部 | 教科別の指導における教員の授業力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科の特質を理解し、個別の指導計画に基づいた自立活動の指導との関連を図りながら、効果的に展開できるように計画する。 ・年間指導計画を確認しながら教科学習における系統性をグループで共有し、個々の生徒の実態に応じた学習の段階と目標及び内容を把握して実践する。 ・指導すべき課題を明確にして、生徒が主体的に取り組めるよう学習活動を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員間で連携して実態把握、情報共有を行い、個々の実態に応じた学習環境を整える。 ・学習指導要領を確認しながら指導計画を立て、実践する。 ・校内研究と連動して、部全体で研究授業等を参観したり映像記録を共有したりしながら意見交換の場を設けるなど、教員同士が効果的に学び合えるようにする。 |
| 安全で安心できる学校づくり | 高等部 | 高等部の教育活動の特徴やねらいを踏まえ、持続可能な指導体制の構築を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に明確な位置付けをした高等部の行事も含めて、生徒の実態に合わせて指導体制や授業時間数を設定する。 ・高等部職員の通常授業時の指導時間数の目安と行事があった場合の指導時間数の差を集計して現状を把握する。 ・次年度の必要指導者数を再検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成に必要な指導者数は必ず確保し、安易な指導体制の変更にならないよう熟慮する。 ・出張や年休の際の補欠依頼のシステムを徹底し、正確な指導時間数を導き出せるようにする。 ・部活動の指導者数の現状も可能な限り把握する。 |
| 安全で安心できる学校づくり | 教頭 | 勤務時間の適正な管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間と休憩時間のけじめをつけた勤務をこころがけ、習慣づけていく。 ・職員の多忙化解消を目指し、業務のスリム化を推進する。 ・時差勤務の一部改正に伴う校内体制を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間外や休憩時間に業務を設定しないように、全職員で心がけていく。 ・学校行事のスリム化に合わせて、業務のスリム化を図る。 ・勤務時間の差異を意識し、情報共有を行うことで、限られた時間の中で効率的に、誰もが業務を進められるようにする。 |

| 項目 | 担当 | 重点目標 | 具体的方策 | 留意事項 |
|---------------|------|----------------------|---|---|
| 安全で安心できる学校づくり | 総務 | ICTを活用した業務の効率化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・R7年度に向けて、学校だよりをホームページに載せる方向で検討する ・年間行事計画と月予定をリンクさせて効率的に資料を作成する | <ul style="list-style-type: none"> ・R7実施に向けて、情報図書部と連携しながら紙からデータへの移行を進める。 ・ICT支援員が作成したひな形を基本に、毎年更新しながら使えるデータを作成する。 |
| 教育活動の充実 | 教務 | 児童生徒の学びにつながる教材の作成と共有 | <ul style="list-style-type: none"> ・作成した教材を共有フォルダ「みあいライブラリー」に保存すること、その教材を活用することを定期的に推進する。 ・みあいライブラリー内の教材を整理し、使いやすように分類する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学期初め、学期末に教材の共有と活用を呼びかける。 ・夏季休業中、冬季休業中に保存されている教材を整理し、分類方法を改善する。 ・研修部と連携し、校内研究で作成した教材の紹介をする機会を設ける。 |
| 安全で安心できる学校づくり | 指導安全 | 防犯・防災体制の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な条件で避難訓練を実施する。 ・マニュアルの見直しと改善を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・放送機器が使用できなかったり、けが人が発生したりするなど、いろいろな状況を想定した訓練を実施する。 ・防災委員会を中心に、より良いマニュアルになるよう様々な角度から検証していく。 |

| | | | | |
|---------------|------|--|---|---|
| 安全で安心できる学校づくり | 指導安全 | いじめの早期発見と未然防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・心と体のアンケートと個別面談を実施し、相談しやすい環境を整える。 ・本校のいじめ防止基本方針を周知徹底する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、いじめ不登校対策委員会を開催し組織的に対応する。適宜、スクールカウンセラーなどの関係者、関係機関とも連携する。 ・児童生徒が学級関係者以外にも相談できることを知り、周りの大人に相談する習慣を身に付けられるようにする。 ・基本方針の周知徹底を実施することで、職員の意識を高め、いじめの未然防止につなげる。 |
| 教育活動の充実 | 進路 | 進路指導における職員の専門知識の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・自主研修会を実施する。 ・進路情報を関係職員に回覧したり、校務支援システムで知らせたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員のニーズに応じたテーマで研修機会を設定する。 ・校務部会の職員全員で研修内容を確認したり、分担したりして知識を広める。 ・伝える内容は精選し、分かりやすくする。 |
| 地域との連携 | 支援 | ひまわり相談の充実を図る | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の学校等に相談について伝える。 ・校務部会で支援方法を検討したり、他の校務分掌と連携したりする。 ・相談記録を回覧等で報告し、情報共有をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談や居住地校交流などの際に、ひまわり相談のリフレットを配布する。 ・その都度、支援部の担当者を決め、聞き取りや校務部会での提案、相談活動の実施までを行い、支援部全体で取り組む。相談内容によって他の校務主任等にも協力依頼し、多角的な観点から支援方法を検討する。 ・相談記録を回覧したり、学期ごとに書面一覧で報告したりし、いただいた意見やアドバイスを今後の支援に生かす。 |
| 教育活動の充実 | 研修 | 教科別の指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・「教科別の指導における授業づくり」をテーマに、校内研究に取り組む。 ・個別で授業計画の立案や教材研究を行い、互いに授業を参観して意見交換をすることで、個々の授業力を高める。 ・教材・教具を共有し、授業内容の発展や準備の効率化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容を確認しながら授業計画や教材研究ができるように、「授業づくりシート」を作成する。 ・授業のアイデアや学習の系統性など様々な視点から活発な意見交換ができるように、学年や経験年数等を考慮した教科別の少人数グループを組む。 ・みあいライブラリーに教材・教具のデータを入れて共有する。 |
| 安全で安心できる学校づくり | 情報図書 | 分掌間での協力をを行い、教育活動、業務効率化を支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「今あるもの」のさらなる活用をすることで、業務の効率化を図る。 ・分掌間で相互協力をを行い、教育に役立つアプリケーションの選定や研修の補助を行う。 ・蔵書の見直しや新規購入を積極的に行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・マチコミを使った欠席連絡を行ったり、情報発信を増やしたりすることで、家庭、職員双方の負担を減らす。 ・情報発信の方法や、GIGAスクール端末の使い方を見直し、児童生徒及び職員が学びやすく、働きやすい環境を考える。 ・AIを用いた業務や、教育活動を行っていく上でのルールを整備する。 ・児童生徒への聞き取りを行って蔵書の刷新を行い、児童生徒が魅力を感じる書籍を増やす。 |
| 安全で安心できる学校づくり | 保健体育 | 昨年度の検討を受け、給食における食物アレルギー対応について整理する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーチェックについて、分掌の役割と各学年や学級担任の役割を明確にする。 ・アレルギー担当者を複数配置する。 ・アレルギーに関する書類を整理する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・給食にかかわるすべての人が安心して取り組むという目標を学校全体で共有し、アレルギー対応全般の見直しを進める。 |
| 教育活動の充実 | 自立活動 | 他の校務分掌や外部機関と連携し、確かな学習支援が提供できる体制づくりを図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他の校務分掌と連携し、職員のニーズに沿った情報提供をする。 ・外部専門家と連携し、ケース会や研修会を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動を実施するにあたって求められる専門性は何かを校務部内で焦点化し、見合った情報提供をする。 ・他の校務分掌と連携し、目標設定や支援内容の選定を分かりやすく導くための書式の検討や、指導内容を充実するための研修を実施する。 ・全校に還元できる外部専門家活用体制について、校務部内で検討する。 |

学校改善のための評価項目(学校関係者評価)

| | |
|---------------|--|
| 安全で安心できる学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や職員が、健康的に学習活動に取り組めるように、校内の安全管理を行う。また、安全管理マニュアルを活用して危険予知を行うことで、安全を確保した学習場面を設定できるようにする。 |
| 教育活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動やICTに関する情報共有や研修の機会を設け、児童生徒の特性に応じた教育活動が行えるようにする。また、児童生徒の年齢や発達を視野に入れ、将来を見据えたひろがりのある学習活動を意識する。 |
| 地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の関係機関に対し、本校の教育活動に対する理解や、センター的機能の発揮につながる情報発信を行う。また、情報の内容や状況に応じた情報発信ツールを工夫する。 |